

WWWを利用したイメージアンケートシステム

4S-5

澤野 貴 柴 健一郎 長谷川 肇 伊與田 光宏

千葉工業大学

1.はじめに。

今日のインターネットの利用者は加速度的な増加を見せている。WWW上で様々なものを対象にアンケートが実施されている。しかし、回答情報収集は選択方式や入力方式がほとんどであり、絵画や風景等のイメージを問うようなアンケートは回答者にアンケート集計結果がフィードバックされにくい。回答者には自分の回答処理結果は目にしにくい状況となっている。

そこで本研究では、イメージを問うアンケートに対して回答しやすく、またアンケート収集者だけではなく、回答者も途中状況、結果を見ることの可能なシステムを提案する。

2.回答収集の現状

2.1.現状

現在の情報化社会において、特定のものだけではなく幅広い分野で、様々な目的をもってアンケートが行われている。街頭で行うアンケート方法、郵便物、電話等を用いた方法、WWW上ではもちろんのこと他のネットワークを用いた方法など形態は様々である。しかし、人間のイメージに対するアンケートはあまり存在しない。

図1にアンケートの収集の流れを示す。過程のうち特に“データ収集”に問題点、改善点が存在する。

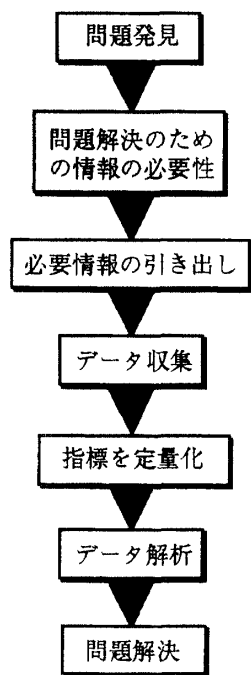


図1 アンケート収集の流れ

2.2.ネットワーク利用の得失

アンケート収集法は、コンピュータネットワークを利用した方法（WWW、e-mail、電子掲示板等）、コンピュータメディアを利用しない方法（街頭、電話、郵便等）に分けられる。表1にネットワーク利用の得失をまとめたものを示す。

表1 利点と問題点

	ネットワーク未使用		ネットワーク使用	
	街頭	紙上	WWW	その他
時間制約	×	△	△	△
人的労力	×	×	○	○
地域差	○	○	△	△
年齢幅	○	○	△	△
イメージ回答	△	△	△	△
フィードバック	×	×	×	×

○：優れている
 ×：劣っている
 △：状況、目的による

表1から読みとれるようにイメージ回答、結果はいずれの手段によっても問題点を抱えている。イメージ回答の問題点としてアンケート目的、対象によってイメージ情報の収集可能なもの、またそうではないものにわけられる。結果においては、自分の行ったアンケートの途中・集計結果を知ることが殆ど無いと言える。

3.アンケートとイメージ

イメージとはあるものに対して人間が抱く感性のことである。（本研究ではイメージ＝視覚的感性と捉える）イメージは、時間、時代、年齢、天候等様々な要素によって相違し、また視覚的影響においても位置、角度によっても相違するものである。

イメージのアンケートをとる場合、同じ目的の設問であっても回答方法の違いによって大きな違いが生ずると考える。

Image Questionary System on WWW

Takashi SAWANO, Kenichiro SHIBA
 Hajime HASEGAWA, Mitsuhiro IYODA

Chiba Institute of Technology

4. 提案システム

4.1. システム設計

本研究においてはイメージを量る手段としてブラウザ上に幾つかのアンケート対象画像、また同一条件で変化を加えた画像を表示し、設問に対する個人のイメージに合うものを選択することにより情報収集を行う。加えてその理由の収集も同時に行う。また、途中・最終結果も回答者側にフィードバック可能とするようなシステムを提案する。

4.2. システム構成

動作環境としてMacintoshでMacHTTPを用いてインターネットあるいはLAN、にTCP/IP接続されたネットワーク上にサーバを置き、CGIアプリケーションをApple eventを用いて動作制御を行う。図2にハード及びソフトウェア構成を示す。

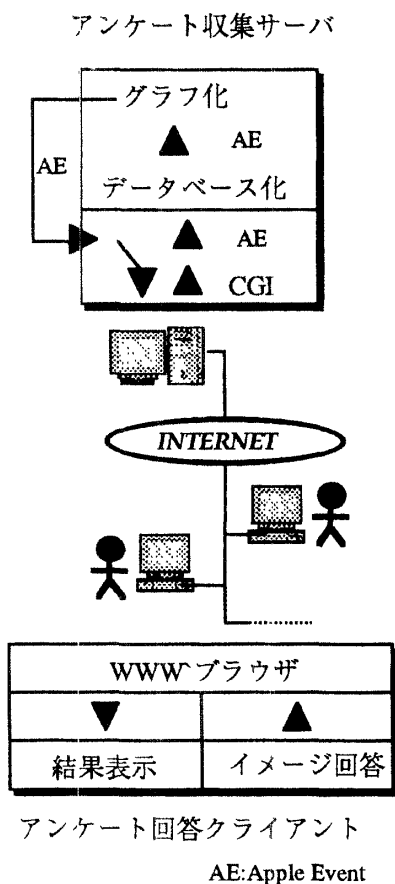


図2 ハード及びソフトウェア構成

5. プロトタイプ

5.1. キャンパスイメージアンケート

今回試作システムとして大学構内の環境に対するイメージを問うアンケートシステムを

作成した。

例えば”自分の研究効率が上がると思われる研究室を選択して下さい”と言う設問に対して、幾つかの研究室内の写真を選択することによって情報を収集し、よりよい研究室の環境作りの参考とする。

5.2. 実行結果

図3に作成した試作画面を示す。設問には文章からイメージをしないように簡素な文章を用い、画像と一緒に並べない。

画面に用いる画像は可能な限り条件を同一なものを用いる、また、画像の比較対象が容易にできるように対称に並べ、回答者がイメージをしやすいうように拡大が可能とする。

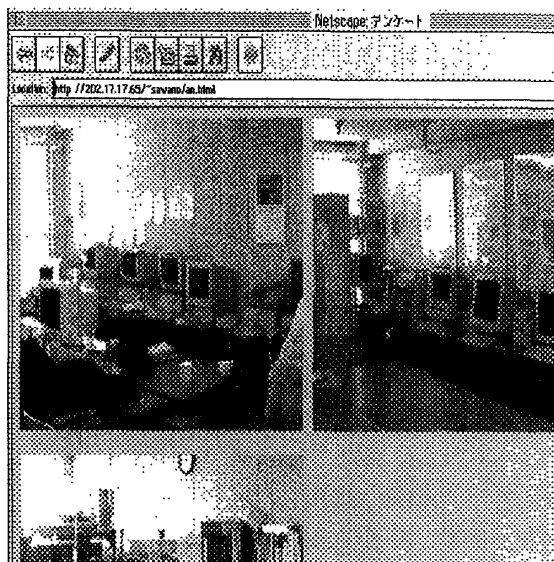


図3 試作画面

6. おわりに

本研究は人間のイメージを量る上で既存の手段より効果的な情報収集が可能となる。また、アンケート結果を回答者側にフィードバックすることにより他人のイメージを認識し、回答者自身も解析者となり得る。

今後の課題としてより現実に近いイメージ情報を収集するためにバーチャリアリティー的表現方法の検討が必要であるを考える。また集計結果の表現方法においてもグラフ表現以外の方法も同様であるを考える。